

山ノ内町立山ノ内中学校1年

山ノ内町の魅力と課題

山ノ内中学校では、ユネスコスクールの理念に基づき、「地域活性化のために自分たちができることを考え、実践していこう」という目標のもと、学年ごとに段階的なESD活動を展開しています。1年生では、自分たちの住む山ノ内町を深く知ることをテーマに、研修旅行やフィールドワークを通じて地域の魅力と課題を探り、その成果を発表しました。

地域を知るための体験学習と調査活動

1年生の活動は、町づくり討論会への提言を目的として、「志賀高原研修旅行」と「地域自慢調査」の2本柱で進められました。

志賀高原研修旅行では、ユネスコエコパークに指定されている地元の自然環境について学び、保全と活用の視点を育てました。

地域自慢調査では、渋・湯田中温泉街を2日間にわたり訪問し、旅館関係者へのインタビューや歴史・伝統に関するガイドの説明を通じて、地元の観光資源を体感的に理解しました。

渋温泉の魅力と課題(Fグループ)

Fグループは「渋温泉の魅力とその課題」をテーマに発表。観光地としての山ノ内町の将来像を「観光客でにぎわう町」「商店街や温泉が栄える町」「自然と人が共存する町」として描きました。現状では、スノーモンキーやスキー場に注目が集まり、温泉や温泉街が十分に知られていないことや、冬以外の魅力が伝わりにくいこと、環境問題の進行などが課題として挙げられました。その解決策として、SNSやパンフレットを活用した情報発信、通年型の魅力発信、環境保全の呼びかけなどを提案しました。

山ノ内の観光資源と課題(Jグループ)

Jグループは、地域調査をもとに「人手不足」や「観光資源の依存」など、山ノ内町が直面する課題を掘り下げました。特に、温泉旅館での後継者不足や、地獄谷野猿公苑への依存度の高さが問題として浮かび上がり、多様な魅力づくりの必要性を指摘しました。理想の山ノ内町として「観光客と住民が増える町」を掲げ、SNSやテレビCMを活用した情報発信のほか、自らも旅館を利用し、その体験を広める行動が大切であると発表しました。

活動を通じた気づきと展望

生徒たちは、調査と討論を通じて地域の魅力と課題を客観的に捉える力を育みました。今後も山ノ内町のさらなる理解と発信に向けて、自分たちにできることを考え、行動していきたいという前向きな姿勢が感じられました。